

新しい根釧農業試験場がスタートしました

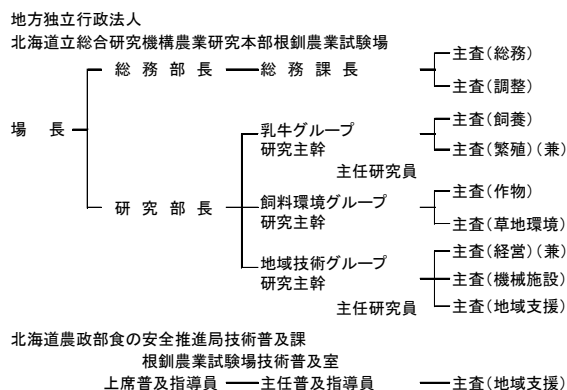
平成22年4月1日、北海道立根釧農業試験場は「地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 根釧農業試験場」として、新しい一歩を踏み出しました。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構(道総研)は、22の道立試験研究機関が一つとなった地方独立行政法人で、法人本部と6つの研究本部(農業、水産、森林、産業技術、環境・地質、建築)で構成されています。根釧農業試験場は農業研究本部に属し、全道的な視野で酪農に関する総合的な試験研究を行い、環境に配慮した低コストで安全・高品質な牛乳の生産技術の開発を進めています。同時に、釧路・根室圏を対象に、地域に密着した試験研究を行うとともに、新しい技術の実証と普及を進めています。

道総研のホームページ <http://www.hro.or.jp>

1. 根釧農業試験場の組織

地方独立法人化に伴い、これまでの研究科単位から、より大きな研究グループ単位で研究が進められています。根釧農業試験場には、乳牛グループ、飼料環境グループ、地域技術グループの3



つがあります。また、これまでの技術普及部は、道職員である普及職員と法人職員である研究職員(地域支援担当)が混在した技術普及室として、その機能を引き継いでいます。

2. 研究内容・役割

各研究グループ・技術普及室の研究内容、役割は以下のとおりです。

○乳牛グループ

(飼養) 北海道の豊かな土地資源と自給飼料に立脚した乳牛の飼養管理に関する試験研究。

(繁殖) 乳牛の繁殖管理や生産寿命の延長をめざした健康管理についての試験研究。

○飼料環境グループ

(作物) 良好な自給飼料基盤を支える牧草と飼料用とうもろこしの栽培・利用法の試験研究や品種選定・選抜。

(草地環境) 酪農地帯の豊かな自然と調和した生産性の高い草地管理技術確立のための試験研究。

○地域技術グループ

(地域支援) 地域とともに開発された新技術の導入や現地における実証試験。

(経営) 持続的な酪農経営や地域農業の活性化に関する試験研究。

(機械施設) 低コストで省力的かつ乳牛の健康向上を目指した酪農機械および牛舎施設の試験。

○技術普及室

根釧農業試験場や関係機関・団体と連携し、農業改良普及センターが行う普及活動の支援や新技術の総合化と実証に取り組むとともに、生産現場からの研究要望を把握することに努めています。